

# ひであきレポート

NO.61 2版



## 6月・9月議会に連続登壇 不祥事から8年 豊橋は再生したのか！

### 市長選を前に市長と論戦

#### 8年間の早川市政の総括と100周年への新たな展望について

市政始まって以来の不祥事で揺れた90周年の秋から8年。豊橋はあの苦渋の日々からどのように再生したのか。

またこの間を担った早川市長は「一期目では、各分野で種をまいてきた。二期目で花を開かせ、実をならせたい」と取り組まれてきましたが、花は咲き、実はなったのか。

そして、市制100周年に向けて新たな展望をどのように開いていくのか。

伊藤ひであきは6月議会、9月議会と登壇し、以下のポイントについて議論しました。

#### <<6月議会>>

(1) 豊橋は農業日本一を渥美町と合併後の新田原市に譲り、県内第二の人口規模も合併する新豊田市に抜かれる。特色ある豊橋の産業を三河港やIT農業を柱に地域産業活性化に取り組んでいく。

(2) 佐世保の少女殺害事件を教訓にネット社会のなかでの子どもたちの健全な成長のために子どもを守る大人ネットワークを構築していく。

#### <<9月議会>>

(1) 不祥事の舞台となった「根強い談合体質による公共工事の入札」には制度面でも改革してきたが、問題になった「一般競争入札」は拡大されておらず、公平・公正・透明な行政運営に市役所は一丸となって取り組む。

(2) 「開かれた市政」「市民参加の市政」は早川市政の大命題。わかりやすい市政情報の提供に心がけ、情報を共有し市民との協働の街づくりに努力していく

(3) 次世代型焼却炉導入、分別拡大、プラス

チックごみ全量リサイクルなど8年間の廃棄物行政の取組みを更に進め、530のまちの「埋め立てゼロ」を目指し更に進めていく。

(4) 「行政評価システム」は5年間の「事務事業評価」の実践を経て、「政策施策評価」の新たな段階に入る。全国に誇りうる手法として豊橋方式を確立し、導入目的である市民に良質なサービスを提供していく。

(5) 国の「三位一体改革」の大きなうねりの中で交付税に依存しない自立した地方主権の街づくりに取り組んで行かなければならない。そのためにも税源移譲を優先した改革を国に要請していく。

(6) 「豊川水源基金の見直し」により、水源林涵養のため1トン1円相当額を負担する(豊橋市は毎年4000万円)流れの中で、多額の原資を永久に要することになる。住民への説明責任を果たし、理解を得て、長年の課題に上下流一体となって強力に取り組んでいく。

(7) 市町村合併を行財政改革のチャンスと捉え、周辺自治体の合併の動きを見定めながら、21世紀の展望を開くためにリーダーシップを発揮して「三河市」構想の実現に取り組んでいく。



# 届きましたか、「地震防災マップ」

伊藤ひであきの02年9月議会の提案です。

2年前の9月定例議会一般質問で伊藤ひであきは次のように「地震ハザードマップ」を提案しました。「市民の東南海地震に対する意識は『備えは不十分、不安は感じる』という域を出ていません。

そのために、詳細な地震被害予測を『地震ハザードマップ』として市民に公開し市民の防災意識啓発を行うべきです。

横浜市の「地震マッ

プ」は市内の揺れの分布図を500mメッシュで表示したもので、極めて有効です。詳細な地震マップは、防災対策の精度を向上させると同時に、マップの公表により、市民が住んでいる土地の状態から、住宅の耐震構造の必要性を判断したり、日常の備えや地震時の行動への心構えを促す役割を果たすのではないかと考えます。東田町で

は、石巻では、小鷹野ではと地域に密着した『地震ハザードマップ』の作成を提案」しました

市当局は「災害に強いまちづくりを推進する有効な手段と認識しております。

貴重な提案につきましては、今後、作成する方向で努力してまいります。

以降、2年がかりで作成され、この度、全戸配布されました。



## 「地震防災マップの見方」 学習会とビデオ会

時：10月10日(日)  
午後1時30分から  
所：前畑町のあいトピア  
「勇気の3000キロ」も上映。お出かけ下さい。

## 運動公園に駐輪場整備

### 「駅前大通」新電停工事始まる

「路面電車を生かしたまちづくり」を推進する伊藤ひであきは、本会議や委員会で路面電車の存続のために利用者を増やし、活性化につなげようと懸命に提案活動を行ってきました。

このたび、岩田運動公園に自転車と路面電車の利用を有機的に組み合わせる(パーク&ライド)ために駐輪場が完成し、9月1日から供用開始に

なりました。(写真下)

また、豊橋駅前 新川電停間に「駅前大通」電停の設置工事が始まりました。来年春には完成予定。工事費8000万円。



## 県下最大のプール建設順調

### 豊橋公園のプールは存続!

豊橋市神野新田町に建設中の「プール棟」は06年5月のオープンを目指し順調に進んでいます。総事業費60億円。夏季はプール、冬季はスケート場として利用する施設です。(写真右)

これに伴い、豊橋公園内にあるプールは無くなるのですか」という問い合わせがしばしばありますが、伊藤ひであきは「自転車で気軽に行ける

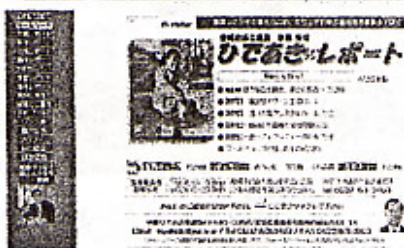


中心部のプールは存続すべき」と主張してきました。その結果、「25mプールと幼児用プールは改修して残す」事が決まっています。ご安心を

豊橋市議会  
一般質問

この春の4万5千人の署名の重みが実ります。

# 市民病院に「女性相談室」



伊藤氏の「市民病院の女性専門外来の設置を」に、早川勝市長は「4万5000余人の署名で要望いただき、実施中の他都市の病院視察など勉強を進めた。必要性は十分認識しているが、継続的な女性医師の確保が難しく、直ちに実施できる状況ではないが、当面、経験豊かな看護師など女性スタッフがサポートする「相談室」を設置し、女性患者の悩みや不安を少しでも解消できるようにしたい」と答えた。